

部課名		生涯学習部生涯学習総務課											
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習部の総務担当課として、事務事業の執行計画の調整・進行管理、連絡調整等を行い、組織が適切に運営できるようにします。 町田市固有の歴史資源(※)の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。 ※歴史資源とは…文化財に限らず、地域の歴史を伝える資料の総称											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括		目標値に対する実績値	評価	評価の視点
1	個別計画	「子どもにやさしいまち」の実現に向けた取組	①町田市の歴史をいつでもどこでも学べるように、町田市の歴史に関するデジタルコンテンツを作成します。2024年度は、自由民権資料館の企画展を終了後も見られるようにデジタル展示化するほか、町田の養蚕について学ぶ、小学校向け出張歴史授業で使用する動画を作成します。 ②小中学校向け事業としては、従来の「出張歴史授業プログラム」に加えて、新規に用意した「施設見学プログラム」「遺跡等見学プログラム」を実施します。	①歴史を学ぶデジタルコンテンツ作成件数 ②小中学校向けプログラムの実施件数	①2件 ②2件	○	①町田の養蚕について学ぶ動画「昔の町田の養蚕を学ぼう」の構成、シナリオ作成等の準備を行いました。 ②「出張歴史授業プログラム」と、新たに作成した「施設見学プログラム」及び「遺跡等見学プログラム」を小中学校に周知しました。 ・7月と9月に「出張歴史授業プログラム」を実施しました。	①10月から企画展を開催し、終了後に展示概要をホームページで紹介しました。 ・町田の養蚕について学ぶ動画を作成します。 ②新規プログラムの利用が進むよう、遺跡や施設の近隣小中学校へのPRを行います。	①歴史を学ぶデジタルコンテンツを6件作成し、時間や場所を選ばずに町田の歴史に触れられる機会を作りました。 ・小学校向け出張授業に使用する町田の養蚕について学ぶ動画を制作し、YouTubeで公開しました。 ・企画展「回せ！ 地域経済—江戸・明治の町田の金融史—」の展示記録、図録、講演会録3件をホームページにて公開しました。 ②子どもたちが町田の歴史に触れる機会を作るため、「出張歴史授業プログラム」に加え、新たに作成した「施設見学プログラム」及び「遺跡等見学プログラム」を実施しました。 ・施設見学プログラムでは小中各1校が自由民権資料館を、遺跡見学プログラムでは小学校1校が本町田遺跡を見学しました。	①6件 ②3件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①町田の歴史に触れる機会の充実と文化財の活用のため、引き続き資料等のデジタル化に取り組みます。 ②子どもたちが町田の歴史に触れる機会を作るため、引き続き、小中学校向けのプログラムの周知・実施をします。
2	-	町田の歴史資源の整備とPR	<ul style="list-style-type: none"> 国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)の未整備部分の整備を実施します。整備状況はホームページ等で情報発信し、整備完了後は八幡平遺跡を活用したイベントを実施します。また、2024年度の整備完了で2013年度から始まった国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡全体の整備完了及び2025年度に遺跡発見100周年を迎えるため、2025年度に向けイベント等を企画します。 国重要文化財旧永井家住宅の耐震対策として、2024年度は耐震基礎診断を実施します。 都指定史跡本町田遺跡の縄文住居の修繕を実施します。修繕状況はホームページ等で情報発信します。 	①整備又は修繕等進捗状況 ②遺跡を活用したイベントの実施	①整備又は修繕等完了 ②1事業	○	①国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)の整備に向けた契約等の手続きを行いました。国重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断実施に向けて、文化庁や業者と調整を行いました。都指定史跡本町田遺跡の縄文住居の修繕を開始しました。 ②国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)のイベントの内容を検討しました。都指定史跡本町田遺跡のガイダンス施設の展示リニューアルとイベントの実施に向けて準備を行いました。	①国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)の整備を完了します。国重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断の実施に向けて調整を行います。都指定史跡本町田遺跡の縄文住居の修繕を完了します。 ②国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)の整備完了後に遺跡を活用したイベントを実施します。また、2025年度の遺跡発見100周年イベントの企画案を作成します。都指定史跡本町田遺跡のガイダンス施設の展示リニューアルとイベントを実施します。	①国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)の整備工事を実施し11月に完了しました。 ・国重要文化財旧永井家住宅の耐震診断は文化庁との調整により、耐震基礎診断の地盤調査項目を変更する必要が生じたため、実施時期を見直し、次年度の実施に向けて準備を行いました。 ・都指定史跡本町田遺跡の縄文住居の修繕を実施し12月に完了しました。 ②12月に「パネル展 写真で見る高ヶ坂石器時代遺跡の整備」と解説イベントを実施しました。また、2025年度の遺跡発見100周年イベントの企画案を作成しました。 ・都指定史跡本町田遺跡ガイダンス施設の展示リニューアルと解説イベントを10月に実施しました。	①高ヶ坂石器時代遺跡の整備及び本町田遺跡の修繕完了 ②2事業	C	C:目標水準を達成したためです。	①整備を完了した各遺跡の適切な維持管理と、幅広く公開・活用していくことが必要です。 ・国重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断を文化庁と調整しながら着実に進めます。 ②高ヶ坂石器時代遺跡発見100周年の記念イベントを実施します。
3	-	展示及び保管環境の整備	自由民権資料館の展示室及び収蔵庫、三輪の森ビジターセンター内郷土資料展示室及び収蔵庫において、IPM(総合的有害生物管理)を実施し、今後の害虫やカビ等の被害を防止する方策を検討します。	検討状況	方策の決定	○	6月からモニタリングを開始し、7月に自由民権資料館の防虫・防カビ施工を行いました。	10月に三輪の森ビジターセンターの防虫・防カビ施工を実施します。引き続きモニタリングを実施し、今後の方策を決定します。	6月からモニタリングを開始し、7月に自由民権資料館で、10月に三輪の森ビジターセンターで防虫・防カビ施工を実施しました。モニタリングの結果から害虫・微生物の数の低減が見られ、一定の効果が得られました。合わせて、展示室や収蔵庫の隙間の穴埋めや清掃コンサルの指導に従った清掃方法の実践等、効果のあると思われる対策を実施し、適切な環境の維持に努めました。次年度以降の方策として、定期的なモニタリングと清掃等の実施を決定しました。	方策の決定	C	C:目標水準を達成したためです。	大切な資料の保管環境を整えるため、引き続きモニタリングの結果に注意しながら、展示室、収蔵庫の適切な管理を行います。

年度目標設定				中間確認			年度末確認						
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
4	個別計画	町田の歴史を学ぶ機会の充実	①町田市域の歴史や考古・歴史・民俗資料の面白さを幅広く伝えるための市民向け歴史講座を実施します。 ②アウトリーチ事業では、多くの方が参加しやすいような会場に向向き、町田市固有の歴史資源を活用した新たな講座や展示を実施します。	①歴史講座の新規利用者率 ②新規アウトリーチ事業件数	①30.0% ②2件	○	①市民向け歴史講座を7件実施しました。「夏休み子どもワークショップ『丸山獅子舞』を体験しよう」や、前期5回の「古文書講座」では新たな受講者の参加が比較的多く、新規利用者率は51%でした。 ②鶴川市民センターで、鶴川地区協議会と連携し、薬師池の成り立ちや歴史などを学ぶ「薬師池の歴史」の講座を実施しました。	①引き続き、後期分の歴史講座を実施します。 ②企画展に関連した展示を実施します。	①市民向け歴史講座「まち歴」を24件実施しました。中でも、「夏休み子どもワークショップ『丸山獅子舞』を体験しよう」、バスツアー「五日市憲法と多摩の民権運動ゆかりの地をめぐる」、「写真で見る高ヶ坂石器時代遺跡の整備」などの体験や見学を伴う内容では新たな利用者が多く、全体の新規利用率は47%となりました。 ②多くの方に町田の歴史に興味を持っていただけでなく、様々な会場で新規アウトリーチ事業を6件実施しました。 ・自由民権資料館の企画展「回せ！地域経済」の関連事業として、小野路宿里山交流館でパネル展示を、国際版画美術館で講演会を実施しました。 ・芹ヶ谷ひだまり荘で、高ヶ坂遺跡の発見から整備完了までを紹介したパネル展示を実施しました。 ・川崎市生涯学習プラザで、出張講座「街角の文化遺産に学ぶー神奈川県・東京府の明治期における自由民権運動」を実施しました。 ・あきる野市・八王子市をめぐるバスツアー「五日市憲法と多摩の民権運動ゆかりの地をめぐる」を実施しました。 ・相模原市との共催で、境川流域の遺跡について学ぶ「まちの歴史、さがしてみました～まちさが考古学講座～」を、相模原市立博物館で実施しました。	①47% ②6件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①より多くの方に町田の歴史に興味を持ってもらえるよう、講座内容や開催場所を工夫し、歴史講座を実施します。 ②町田市固有の歴史資源の活用を進めるため、新しい視点での講座や展示をアウトリーチで実施します。
5	個別計画	考古・歴史・民俗資料の整理	新たな「町田市史」編さんの際に重要となる自由民権資料館所蔵の史料の整理を進めます。	新たな「町田市史」編さんのための重要史料群の整理率	62.5%	○	新たな「町田市史」編さんのための重要史料群の整理を進め、重要史料群の整理率は56.8%となりました。	引き続き重要史料群の整理を行います。	重要史料群の整理を目標どおり進めました。特に、秋企画展「回せ！地域経済」では、整理をした中から相原の青木家、小野路の細野家の史料を活用しました。企画展開催中は、1,008人が来館し、多くの方に整理した史料をご覧いただくことが出来ました。	62.6%	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き重要史料群の整理を進めます。
6	事務事業見直し	生涯学習推進体制の強化	①社会教育委員の職務を生涯学習審議会に取り入れ、社会教育及び生涯学習に係る第三者機関を一元化することで、より効果的な生涯学習及び社会教育を推進する事業を実施していきます。 ②随時発生する文化財の修繕等に適切に対応するため、調査専門員等の設置や外部機関への相談を行うことができるよう、2025年6月からの第33期文化財保護審議会に向け、運営等の見直し案を作成します。	①生涯学習及び社会教育を推進する事業数 ②文化財保護審議会の運営等見直し案作成	①1事業 ②見直し案作成	○	①「東京都市町村社会教育委員連絡協議会※」の研修会実施に向け、生涯学習審議会に部会を設置して内容の検討を行い、12月に市民フォーラムにて研修会を実施しました。当日は「生涯学習と学校教育の連携」をテーマに生涯学習審議会委員等によるパネルディスカッションを行い、多摩地区の社会教育委員等123名が参加しました。研修会後のアンケートでは、「質の高い内容で大変勉強になった」「とても深く進んだ取り組みだと感じた」など好評な意見をいただきました。 ②文化財保護審議会の運営について、他自治体への運営実態調査を実施しました。その結果等に基づき、文化財にかかる調査依頼や会議運営の仕組みの見直し案を作成しました。	①10月中旬を目途に研修内容を決定し、12月に研修会を開催します。 ②見直し案の作成を行います。	①「東京都市町村社会教育委員連絡協議会※」の研修会実施に向け、生涯学習審議会に部会を設置して内容の検討を行い、12月に市民フォーラムにて研修会を実施しました。当日は「生涯学習と学校教育の連携」をテーマに生涯学習審議会委員等によるパネルディスカッションを行い、多摩地区の社会教育委員等123名が参加しました。研修会後のアンケートでは、「質の高い内容で大変勉強になった」「とても深く進んだ取り組みだと感じた」など好評な意見をいただきました。 ②文化財保護審議会の運営について、他自治体への運営実態調査を実施しました。その結果等に基づき、文化財にかかる調査依頼や会議運営の仕組みの見直し案を作成しました。	①1事業 ②見直し案作成	C	C:目標水準を達成したためです。	①これまで、生涯学習審議会及び社会教育委員の会議で議論されてきた施策の進捗確認を行う必要があります。 ②見直し案の実現のため庁内調整や、文化財調査に係る謝礼支払基準の策定等を実施します。

部課名		生涯学習部生涯学習センター											
課の使命		学びに出会う機会と学習成果をいかに提供するための中核施設を担います。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画	「障がい者への差別を解消し共生社会の実現」に向けた取組	2024年2月に作成した「町田市障がい者青年学級事業再構築の方向性について」に基づき、誰もが、障がい等の事情に左右されずに公平に学習することができる事業となるよう、障がい者青年学級の新たな仕組みづくりを行います。	新たな仕組みの検討と実施要項案の作成	作成完了	△	改修工事に伴う生涯学習センターの休館中(2024年10月以降)においても事業を安全に実施できるように、活動場所・活動日数・支援スタッフ体制の調整など安全性確保のための対策を実施しました。	障がい者の生涯学習支援事業に関して、他市の状況調査を実施し、その調査結果を踏まえて、事業の実施要項案の検討・作成を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センター休館前に引き続き、休館中においても、支援スタッフ体制の調整など安全性確保のための対策を講じながら、事業を安全に実施しました。 障がい者青年学級の新たな仕組みづくりとして、練馬区や西東京市など他自治体の状況調査を実施しました。 他自治体の調査結果を踏まえて、事業目的や参加対象者など事業実施に必要な項目を定める障がい者青年学級事業の実施要項案を作成しました。 	作成完了	C	C:目標水準を達成したためです。	今後も生涯学習センター運営協議会や事業関係者等から意見聴取を行うなどして実施要項を作成し、新たな仕組みの導入に向け準備を進めます。
2	事務 事業 見直し	業務・事務の効率化・サービス向上	効率的・効果的な運営を目指すため、「行政でなければ担えない機能」と「民間のノウハウが活かせる機能」を整理し、業務委託範囲の拡大に向けた準備に取り組みます。	業務委託範囲の拡大と導入準備	仕様書案の作成	△	<ul style="list-style-type: none"> 新規に業務を委託する範囲を窓口機能、情報収集・提供機能、講座実施機能の一部とし、事業者へのヒアリングを実施しました。 業務を委託する範囲について、町田市生涯学習センター運営協議会の意見を聞きました。 	引き続き、事業者へのヒアリングや、他市の類似施設の状況調査を行い、仕様書案を作成します。	<ul style="list-style-type: none"> 新規に業務を委託する範囲を窓口機能、情報収集・提供機能、講座実施機能の一部とし、事業者へのヒアリングを実施しました。 学習相談の窓口を会計年度任用職員が担っている調布市や、Webでの動画配信による講座を行っている大田区の視察をしました。 業務を委託する範囲や業務内容について、町田市生涯学習センター運営協議会の意見を聞きました。 事業者ヒアリングや視察の結果を踏まえ、業務委託の仕様書案を作成しました。 	仕様書案の作成	C	C:目標水準を達成したためです。	作成した仕様書案を基に、委託化に向けた準備を進めます。
3	重点 事業 プラン	新たな学びの支援	デジタルデバイドを解消するため、デジタル初心者向けの体験講座を実施します。また、基本操作を習得された方向けに、SNSを活用する講座など、応用講座を実施します。	①学習成果を今後、活かせる割合 ②応用講座実施回数	①88% ②2回	○	<ul style="list-style-type: none"> ①9月末までに実施した、デジタル初心者向け体験講座等のアンケートで、学習成果を今後活かせる割合は93.4%でした。 ②下半期の応用講座実施に向けて、講座内容の企画検討を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタル初心者向け体験講座は依然として市民ニーズが高いため、当初の予定から回数を拡充して引き続き実施します。 ②上半期に検討した内容をもとに、応用講座を2回実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタル初心者向け体験講座として、「なんでもスマホ相談室」を生涯学習センター及びわくわくプラザで、全28回実施しました。また、高齢者を対象とし、各ふれあい館で「高齢者向け！なんでもスマホ相談室」を全16回実施し、合わせて約440人が受講しました。アンケートで、学習成果を今後活かせる割合は91.8%でした。 ②応用講座として、LINE活用講座と、生成AIの基礎講座を実施しました。 	①91.8% ②2回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続き、高齢者を中心に、デジタルデバイスに直面している市民は多いことから、「なんでもスマホ相談室」を多くの地域で実施します。 ②基本操作を習得された方向けに、スマートフォンを活用する講座等、応用講座を実施します。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点
4	個別 計画	学びの入口の 充実	アンケートで把握した市民ニーズを踏まえ、整理・体系化した内容で講座事業を実施し、市民の学びの機会を拡充します。特に、市民大学は、より多くの方が連続講座を最後まで受講してもらいやすいカリキュラムや内容に見直した上で実施します。また、生涯学習センターの休館期間中も市民の学習機会を確保するために、実施講座のデジタル配信を推進します。	①出席率(※)が70%以上の市民大学講座数 ②実施講座のデジタル化率 ※出席率＝延べ出席者数／(受講決定者数×開催回数)	①9講座 ②4%	○	①市民大学前期講座として6講座を実施し、出席率が70%以上となった講座は4講座でした。 ②9月末までに生涯学習センター主催講座として実施した13講座計49回のうち、2回をデジタル配信しました(デジタル化率4.1%)。 ③市民大学の公開講座等のデジタル配信を行います。	①10月1日以降、改修工事に伴い生涯学習センターが休館となるため、市民大学後期講座は市内の公共施設等を会場として5講座を実施します。 ②生涯学習センター主催講座として実施した33講座124回のうち、5回をデジタル配信しました(デジタル化率4.0%)。	①市民大学講座として前期講座、後期講座を合わせて11講座を実施しました。出席率が70%以上となった講座は、夏季の猛暑による出席辞退者が生じたことが影響し、8講座でした。なお、講座全体の出席率は79.2パーセントでした。 ②生涯学習センター主催講座として実施した33講座124回のうち、5回をデジタル配信しました(デジタル化率4.0%)。	①8講座 ②4.0%	C	C:目標水準を達成したためです。 ①市民大学講座の趣旨である地域人材の育成の観点と、興味関心の持たれやすさが両立するよう、引き続きカリキュラムや内容、実施時期を見直します。 ②デジタル配信による講座は、対面型講座への参加が難しい現役世代向け講座を中心に実施します。
5	個別 計画	学びのネット ワークづくりの 促進	学習成果を生かし、学びの循環につなげるため、生涯学習ボランティアバンクを再構築した仕組みで実施します。また、学び直しにつながる社会人向けリカレント・リスキル教育について、情報の収集・整理・提供を行うとともに、「相模原・町田地域教育連携プラットフォーム」との連携による教育事業を実施します。	①生涯学習ボランティアバンク再構築後の利用件数 ②リカレント・リスキル教育情報の整理・提供	①20件 ②実施	△	①ホームページによる周知に加え、市内の学童保育クラブなどに制度の周知を行いました。9月までの利用件数は2件でした。 ②大学等によるリカレント・リスキル教育事業の実施に向けて、大学等と協議を行いました。	①利用促進に向け、引き続き、市のホームページ等で周知します。 ②大学等によるリカレント・リスキル教育事業の実施に向けて、大学等との協議を引き続き行います。	①ホームページによる周知や学童保育クラブなどへの制度の周知を継続しましたが、利用件数は4件に留まりました。 ②町田市周辺の大学や公的機関が社会人向け講座として実施しているリカレント・リスキル教育事業について、情報を収集し、整理を行いました。また、「相模原・町田地域教育連携プラットフォーム」に参加する大学等と協議を行い、2025年度の事業計画を作成しました。	①4件 ②一部実施(リカレント・リスキル教育情報の整理)	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。 ①生涯学習センター再開後のニーズ調査の実施に向け、調査手法を検討します。 ②リカレント教育事業は実施団体および実施講座数が少ないため、情報の収集範囲を拡大します。

部課名		生涯学習部図書館											
課の使命		誰もが、必要とする知識・情報を容易に入手することができ、安心して過ごせる環境を提供することで、人と人とのつながりあい知的で心豊かな生活の実現に寄与します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定					中間確認			年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン / 事務事業見直し	ワタンが主役の図書館づくり	目的や用事がなくても気軽に過ごせる地域の居場所をつくることを目指し、鶴川図書館を地域と「共に創り」「共に運営する」図書コミュニティ施設へと転換するため、民設民営化に向けた準備を行い、コミュニティの形成や読書普及に関するイベントを実施します。	①民設民営化に向けた準備 ②コミュニティの形成や読書普及に関するイベントの実施	①民設民営化に向けた準備の完了 ②3回	○	①5月から、「(一社)つるかわ図書コミュニティ施設運営協議会」がコミュニティスペースの運営を開始し、利用者との意見交換や工作などの小規模のイベントを実施しました。 ②6月に図書コミュニティ施設の愛称を募集し、90件以上のご提案をいただきました。愛称選考委員会において5案に絞り、鶴川図書館等でシール投票を8月末まで実施しました。結果は10月の鶴川団地秋祭りと連携したイベントで発表します。 ③9月に行われた第3回町田市議会定例会に町田市立図書館条例の一部を改正する条例案を提出しました。 ④7月に地域の自治会や商店会と連携したイベントを1回実施しました。	①2025年度に図書コミュニティ施設を開設できるような準備をします。 ②施設運営事業に関する補助金交付要綱を制定します。 ③2025年3月に、施設改修を実施します。また、運営団体と施設の管理及び運営に関する協定を締結します。 ④2025年3月に、施設改修を実施します。また、運営団体と施設の管理及び運営に関する協定を締結します。 ⑤2025年3月に、施設改修を実施します。また、運営団体と施設の管理及び運営に関する協定を締結します。	①2025年度のつるかわ図書コミュニティ施設開設に向けた準備が完了しました。 ②町田市立図書館条例の一部を改正しました。 ③施設運営事業に関する補助金交付要綱を制定しました。 ④運営団体と施設の管理及び運営に関する協定締結準備をしました。 ⑤施設の愛称、ロゴが決定しました。 ⑥看板変更や内装サインの作成などの施設改修を実施しました。 ⑦7月と10月に地域の自治会や商店会と連携したイベントを実施しました。その他にも、工作イベントやポッチャ体験、ミステリー仕立てのクイズ大会、豆本づくりなど、イベントを8回実施し、地域のコミュニティづくりや読書普及に取り組みしました。	①民設民営化に向けた準備の完了 ②10回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	2025年度から、つるかわ図書コミュニティ施設の運営がスムーズに行われるよう、引き続き運営団体の支援をします。
2	個別計画	さるびあ図書館の再編	町田駅周辺公共施設再編構想に基づき、2026年度に集約方法を決定するため、①図書館利用者および子ども・若者を対象とした意見交換会、②町田第二地区の住民を対象にした無作為抽出アンケート、③集約方法の素案作成をします。	①意見交換会の実施回数 ②無作為抽出アンケートの実施 ③集約方法の素案作成	①2回 ②アンケートの実施 ③素案作成	○	①6月に乳幼児の親を対象としたインタビューを実施し、42名の方からご意見をいただきました。また、7月に図書館利用者等を対象とした意見交換会を開催し、38名の方に参加いただきました。 ②当初町田第二地区のみを対象としていたアンケート調査に町田第一地区を加え、7月に町田地区の住民1,500名を対象にした無作為抽出アンケートを送りました。また、町田市のホームページ上で実施している「町田ちよこっとアンケート」を活用し、300名の方から集約に関するご意見を収集しました。 ③これまでいただいたご意見をもとに集約方法素案作成に向けた検討を進めました。	①子ども・若者世代を対象とした意見交換会を開催します。 ②無作為抽出アンケートの集計を行い、図書館ホームページに結果を公表します。 ③集約方法素案を作成します。	①6月に乳幼児の親を対象としたインタビューを2回実施し、42名の方からご意見をいただきました。また、7月に図書館利用者等を対象とした意見交換会を2回開催し、38名の方に参加いただきました。10月に子ども・若者世代を対象とした意見交換会を実施し、15名の方からご意見をいただきました。 ②町田市のホームページ上で実施している「町田ちよこっとアンケート」を活用し、300名の方から集約に関するご意見を収集しました。また、町田地区(町田第一地区、町田第二地区)の住民1,500名を対象にした無作為抽出アンケートを8月に実施しました。 ③これまでいただいたご意見のまとめを作成し、図書館ホームページ上で公表しました。	①5回実施 ②アンケートの実施 ③意見のまとめ作成	C	C:目標水準を達成したためです。	さるびあ図書館統合に向けた検討を進めます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点
3	重点 事業 プラン / 事務 事業 見直し	新たな図書館 様式推進事業	①地域資料デジタル化を実施し、電子書籍サービスの充実を図ることにより、暮らしの中で本に触れる機会を増やします。 ②更なる運営効率化と利便性向上のため図書館システムの更改を実施します。	①電子書籍の年間貸出数 ②システム更改の実施	①110,000タイトル ②システム更改の完了	○	①9月末時点の電子書籍の貸出件数は、64,054タイトルです。 ・デジタル化する地域資料を確定し、事業者と契約をしました。 ・堺市民センターまつり及び南市民センターまつりで電子書籍サービスのPRを実施しました。また、カフェなどで名刺型PRカードを配布しました。 ②システム開発のための要件定義と設計工程が完了し、開発工程が進行中です。設計工程を経て、更改後に以下の機能を実装します。 ・マイナンバーカードを利用したオンラインでの利用登録 ・AIを活用した本の検索機能 ・スマホや、タブレットに適したHPデザイン ・予約本セルフ受取棚設置館の増設(新たに金森図書館とさるびあ図書館が加わり、合計で5館)。	①創刊号から2001年までの広報まちだ縮刷版等、地域資料98点をデジタル化し、図書館の電子書籍サービスで公開します。 ・忠生市民センターまつり及び、小山市民センターまつりにて電子書籍サービスのPRを実施します。また、引き続きカフェなどで名刺型PRカードを配布します。 ②システムテストやデータ移行テスト、システムの入受テスト、各種連携テストを実施し、2025年3月に新システムをリリースします。	①電子書籍の年間貸出件数は、約120,000タイトルとなりました。 ・地域資料98点をデジタル化し、1月から電子書籍サイトで公開しました。 ・7か所の市民センター・コミュニティセンターまつりで、電子書籍サービスのPRを実施しました。 ・カフェなどで名刺型PRカードを配布しました。 ②要件定義、設計、開発、各種テスト、データ移行を経て、システム更改が完了しました。以下の新機能を実装しました。 ・マイナンバーカードを利用したオンラインでの利用登録・更新 ・AIを活用した本の検索機能 ・スマホや、タブレットに適したHPデザイン ・予約本セルフ受取棚設置館の増設(新たに金森図書館とさるびあ図書館が加わり、合計で5館) ・LINEから図書館システムへのログイン・蔵書検索・図書資料の予約 ・スマホで利用券表示(カードレス化) ・Googleストリートビューで疑似的な来館体験 ・全館で利用者フリーWi-Fi完備	①約120,000タイトル ②システム更改の完了	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。 ②新機能を多くの利用者に使用していただけるように広く周知を行います。
4	個別 計画	第四次町田市 子ども読書活動 推進計画の 推進/「子どもにやさしいまち」の実現に向けた取組	①「えいごのまちだ」事業を推進するため、外国語の絵本・児童書の整備・活用を進めます。 ②子ども・若者が読書や図書館に興味を持つよう、若者が参画するイベントを実施します。	①外国語の絵本・児童書の貸出冊数 ②若者が参画するイベントの実施件数	①18,000冊 ②2件	○	①9月末時点の貸出冊数は、8,565冊です。 ・8月に親子向けの英語読み聞かせ体験講座「子どもと一緒に英語絵本を楽しもう！」を開催しました。 ・PRのために新しいチラシを作成し、読み聞かせ向きの絵本の紹介(表面)、電子書籍サービス、ふるさと納税の紹介(裏面)をしました。 ②イベントの企画・運営を行う若者ボランティア「図書館プランナー」の初企画となる「本の福袋」を、5月28日から6月15日まで実施しました。また、ゲームイベントや宿泊イベントを试运行しながら企画の検討をしました。	①10月に英語多読初心者向けの講座(ワークショップ形式)を行います。 ②図書館プランナーが主催するイベントを行います。	①外国語の絵本・児童書の貸出冊数は約16,200冊となりました。 ・PRのため、新しいチラシの作成や、10月に中央図書館4階で英語多読の特集を行いました。 ・8月に親子向けの英語読み聞かせ体験講座を、10月に英語多読初心者向け講演会「英語多読を始めよう！」を全2回の連続講座で開催しました。初めて連続講座形式で行い、絵本を実際に読んでグループで感想を言い合うブックトークの時間を多くとることができました。 ・次年度に向けて3月に、英語絵本の読み聞かせのコツや英語の手遊び歌などを一緒に行う職員向けの研修会を行いました。 ②若者ボランティア「図書館プランナー」が企画したイベントを5件実施しました。 ・新しい本と出会えるきっかけを作るため、5月に「本の福袋」、1月に「図書みくじ」を実施しました。また、12月に「恋と愛が叫びたがっているんだ～恋愛漫画推し語り会～」、2月に「LLブックよみきかせ会」と「エコたわしをつくろう」を実施しました。実施したイベントの他にゲームイベントや宿泊イベントなどを试运行して、今後の企画に活かすノウハウを蓄積しました。	①約16,200冊 ②5件	C	C:目標水準を達成したためです。 ①多くの人に英語多読を知ってもらえるよう、電子書籍サービスでの活用も含めて、広く周知をします。 ②子ども・若者が読書や図書館に興味を持つよう、引き続き、若者自身が参画するイベントを実施します。

部課名		生涯学習部図書館 町田市民文学館											
課の使命		”ことばの扉”として、子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の人たちに、ことばや文字、文学の魅力に触れる機会、学びのきっかけとなる機会を提供します。また、世代を超えて多様な考え方や価値観に触れ、コミュニケーションを図ることで、創造性を高め、豊かな心を育む場所となります。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定				中間確認				年度末確認					
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画	森村誠一没後 1周年記念事 業の実施	①町田市名誉市民であり、文学館の開設以来長年に渡り活動を支援していただいた森村誠一氏没後1周年の記念展を秋に開催します。また、森村氏の業績を顕彰し、作品の魅力を感じてもらうための関連事業を通年で実施します。芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアムなど、近隣の施設と連携した事業も実施します。 ②事業の実施に際し、助成金申請や企業の協力を仰ぐなど、新たな財源の確保に努めます。	①事業の実施数 ②財源の拡充	①-1 展覧会 1件 ①-2 関連事 業 6件 ②新たな財源 の確保 1件	○	①-1 展覧会開催に向けて、作家遺族をはじめ関係各所と話し合いを重ね、資料調査や関連イベントの調整を進めました。 ①-2 関連事業として、町田市観光コンベンション協会と協力し「愛するまちだフォトコンテスト2025」に森村誠一が提唱した「写真俳句部門」を新設しました。 7月に八王子市生涯学習センター南大沢分館にて文学講座「森村誠一 未知の狩人」を行いました。 ②展覧会に併せて実施する上映会(2本)に際し、角川文化振興財団の協力を仰ぎます。	①-2 12月に市民団体「朗読劇かわせみ座」と朗読劇を開催します。「愛するまちだフォトコンテスト2025」関連イベントとして町田薬師池公園四季彩の杜で「写真俳句体験講座」を実施します。 角川文化振興財団の協力により映画会2本を開催します。 ②多摩信用金庫の協力を得て、LINE公式アカウントにて10月に展覧会の広報を掲載していただきます。	①-1 当館創設に縁の深い作家・森村誠一氏の没後1周年に合わせた展覧会「森村誠一 小説(ミステリ)を生きた男の肖像」を開催し、2,963人にご観覧いただきました。 ①-2 展覧会と併せて以下の13件の関連事業を実施しました。 ・「人間の証明」「野性の証明」の映画上映会 ・市民団体朗読劇かわせみ座の朗読劇「雪の絶唱」 ・作家や評論家を招いての講演会・座談会(5件) ・文学系YouTuberスケザネ氏による展示室内謎解きクイズ「森村誠一からの挑戦状！」 ・町田市観光コンベンション協会との連携による「愛するまちだフォトコンテスト2025」 ・写真俳句協会との連携による「写真俳句コンテスト」 ・ショートショートコンクール2024における「森村誠一賞」の創設 ・青山学院大学文学部日本文学科同窓会との連携による森村誠一勉強会と展示見学会 ②芸術文化振興基金の助成金を申請しましたが、獲得することはできませんでした。しかし、久美堂書店の協力を得て「写真俳句コンテスト」の受賞者へ景品(図書カード)を授与し、市費負担を抑えることができました。また、秋季展覧会における角川文化振興財団の特別協力による映画上映会開催や、多摩信用金庫公式LINEアカウントおよびNHKによる企画展情報の拡散など、民間企業の協力を得ることができました。	①-1 展覧会 1件 ①-2 関連事 業 13件 ②新たな財源 の確保 1件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	幅広く助成金の内容を研究し、申請する必要があります。また、文学館の強みを発揮できる企業・団体との協働による事業の拡充を進めます。
2	個別 計画	「ことばの扉」 事業の推進	春に開催する、現代短歌をテーマにした芸術祭「57577展2nd」をはじめ、「ことば」や「文学」を柱とした展覧会を4回実施します。デジタルコンテンツの活用やアウトリーチ等、新たな年代層に対応した手法を検討しながら、ことばや文学に関する事業を行います。また、小・中学校への出張授業を行い文学に触れあう機会をつくり出します。	①展覧会観覧者数 ②アウトリーチ実施件数	①22,500人 ②21件	○	①町田市民文学館の春の企画展「57577展2nd」は、Xを利用した短歌募集などが注目を集め、20代を中心に6,061人の方にご覧いただきました。 ・夏の企画展「チリとチリり どいかや絵本の世界展」は、若い世代だけでなく、絵本が好きな大人の方など、幅広い層の方にご覧いただき、観覧者数は17,134人となりました。 ②「ことばらんどショートショートコンクール」に関して、市内の小・中・高校において15件の出張授業を行いました。また、前年度を受賞作品展を市庁舎1階イベントスペースおよび中央図書館で開催しました。その他、夏の展覧会の関連イベントとして、芹ヶ谷公園で出張おはなし会や自然観察会を実施しました。	① 秋は「没後1周年 森村誠一展 小説(ミステリ)を生きた男の肖像」、冬は「(仮称)「落語」展」の開催を予定しており、ひき続き年度目標の達成を目指します。 ②鶴川地区協議会の主催する3水スマイルラウンジで「こんなにおもしろい、寄席の世界」を担当します。 町田ゆかりの作家や町田が登場する文学作品を紹介するガイドブック「町田ブンガク」を使用した出張授業を行います。	①幅広い世代にことばや文字、文学の魅力を届けるため、多様なテーマの展覧会を開催しました。また、SNSを利用して広報したり、クイズや短歌募集など、観覧者が見るだけでなく、参加できる仕組みも取り入れるなどの工夫をした結果、観覧者数は過去最高の29,000人になりました。 ②年間を通じて以下の25件のアウトリーチ事業を実施しました。 ・市内の小・中・高校において「ことばらんどショートショートコンクール」に関連した出張授業16件 ・町田ゆかりの作家や町田が登場する文学作品を紹介するガイドブック「町田ブンガク」を使用した出張授業3件 ・中学生のキャリア教育のための「社会人せんせい」 ・3水スマイルラウンジでの講演会 ・ショートショートコンクール受賞作品展3件 ・町田ブンガク紹介展	①29,000人 ②25件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	観覧者や受講者のニーズをとらえたテーマ設定・内容で事業を実施する必要があります。

年度目標設定					中間確認		年度末確認						
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	個別 計画	つながることに 重きを置いた 事業の実施	ことばや文学を柱にしなが地域や人とのつながりを生み出す事業を実施します。学校と連携して実施する「ことばらんどショートショートコンクール」や、町内会や商店会と連携し開催する「文学館まつり」など、学校や地域協力者、事業所等と連携し、新たな事業を実施します。	学校や地域協力者、事業所等と連携して実施した事業数	17事業件 ※わかりやすい 標記に改め ました。	○	上半期に連携事業を7件実施しました。 ・町田総合高校と連携し、夏の展覧会関連企画としてクイズの作成と出張おはなし会を実施しました。 ・女子美術大学の学生と連携し、ショートショートコンクール2023受賞作品展を実施しました。 ・文化振興課と連携し、芹ヶ谷公園で出張おはなし会と自然観察会を実施しました。 ・市内の小・中・高校と連携し、ショートショートコンクール2024を実施しました。 ・文学館近辺の町内会・商店会の代表で構成される文学館まつり実行委員会と連携し、春の「57577展2nd」関連イベントとして「57577フェス」を実施しました。 地元町内会、商店会と連携し、10月に「文学館まつり」を、3月に「文ッ字フリマ」を実施します。 2月に鶴川地区協議会の主催する3水スマイルラウンジで、(仮称)「落語展」開催に合わせた講座「こんなにおもしろい、寄席の世界」を担当します。	年間を通じて以下の18件を実施しました。 ・地元町内会、商店会と連携し6月に「57577フェス」を、10月に「文学館まつり」を、3月に「文ッ字フリマ」を開催 ・夏季展覧会において、町田総合高校と連携しクイズの作成とおはなし会を開催。また文化振興課と連携して芹ヶ谷公園で自然観察会と出張おはなし会を実施 ・春季展覧会、秋季展覧会において、町内印刷業者と共同企画した展覧会オリジナルグッズを作製販売。喫茶けやきと協力して展覧会オリジナルメニューを提供 ・秋季展覧会関連イベント「写真俳句コンテスト」において、久美堂書店の協力により受賞者への景品提供を実現 ・観光コンベンション協会主催の「愛するまちだフォトコンテスト」に「写真俳句部門」を創設 ・秋季展覧会において市民団体朗読劇かわせみ座と連携し、朗読劇「雪の絶唱」を実施。また、青山学院大学文学部日本文学科同窓会と連携し森村誠一勉強会と展示見学会を実施 ・市内の小・中・高校と連携し、ショートショートコンクール2024を実施 ・女子美術大学の学生と連携し、ショートショートコンクール2023受賞作品展を実施 ・桜美林大学と連携し、絵本ワークショップを実施	18件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	文学館と連携先とが持つ強みを発揮しながら、より良い事業展開をしていく必要があります。	
4	個別 計画	中高生から20 代の若い世代 を対象とした 事業の充実	未来を担う若い世代にことばや文字、文学の魅力を伝えるため、文学に近接する分野を幅広く取り込んだ事業を実施します。 小・中・高校生を対象に「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。より多くの作品を応募してもらえるようなPR方法を検討します。	①10代・20代を対象にした事業の実施 ②ショートショートコンクール応募件数	①3件 ②1,050件	○	①春の企画展「57577展2nd」は、20代を中心に6,061人の方にご覧いただきました。夏の企画展「チリとチリ」どいかや絵本の世界展」は、想定した若い世代だけでなく、絵本が好きで大人の方など、幅広い層の方にご覧いただき、観覧者数は17,134人となりました。 ②応募件数は1,114件でした。 ・出張授業や出張展示の実施、チラシや2023年度受賞作品集の配布によりコンクールの周知を行いました。また、2023年度の表彰式と、審査員による受賞作品の朗読の動画をYouTubeで公開しました。	①10～20代の若年層に人気のある講師を招聘して、文学講演会を実施します(25年3月)。 ②応募作品の審査を行います。1月下旬に受賞者の表彰式を行います。	①若い世代を対象とした事業を5件実施しました。 ・近年若い世代に注目されている現代短歌をテーマとした「57577展2nd」を実施し、20代を中心に6,061人の方にご覧いただきました。 ・夏の企画展「チリとチリ どいかや絵本の世界展」は、想定した若い世代だけでなく、絵本が好きで大人の方など、幅広い層の方にご覧いただき、観覧者数は文学館史上最高の17,134人となりました。 ・町田出身のラッパーKEN THE 390のトークイベント「言葉は弾む、踊る。KEN THE 390 feat.長井優希乃」を実施しました。 ・文字のデザインに興味を持つ若い世代の交流の場を作るため「文ッ字フリマ」を実施しました。 ・玉川大学の学生と共同制作した文学ガイドブック「町田ブンガク」を使用した出張授業を、中学校3校で実施しました。 ②応募件数は過去最高の1,149件となりました。 ・ショートショートコンクールの実施にあたり、小学校8校、中学校4校、高校1校で出張事業を行いました。	①5件 ②1,149件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	子ども・若者が、ことばや文字、文学に興味を持つきっかけを作れるような事業を、継続して実施します。
5	事務 事業 見直し	「ゼロカーボン シティまちだ」 に向けた取組	町田市第5次環境配慮行動計画に基づき消費電力の削減に努めます。貴重資料保存庫、収蔵庫に加え、展示室の温度を、現状から夏季は+3℃、冬季は-3℃にの範囲で調整することで消費電力の削減効果を検証します。	電気使用量の削減	前年度比4%削減	△	外気温を考慮しながら、5月に貴重資料保存庫・収蔵庫・展示室の温度を標準値(22℃)から+2℃に設定しました。 猛暑の影響で4月から9月までの使用量は2023年度と比較して約1%増加しました。	外気温を考慮しながら、10月頃に標準設定に戻し、11月頃には標準値から-3℃に設定します。	貴重品保存庫・収蔵庫・展示室の温度について、22℃を標準値として外気温の温度を考慮しつつ、夏季は+2℃、冬季は-4℃に設定しました。消費電力の削減については目標値に至りませんでした。猛暑時においても設定温度の変更により収蔵品の損傷がないことが確認できました。	前年度比1%削減	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	前例踏襲ではなく、見直しの意識を常に持つ必要があります。今後も適切な温度管理に努め、消費電力の削減に努めます。